

(平成 29 年度の実績評価)

総合計画体系	政策No.	2	政策名	ともに生き支えあうまちの形成	施策主管課	保健福祉部 介護福祉課
	施策No.	9	施策名	高齢者福祉の充実	施策主管課長名	内田 淳
施策関連課名				国保年金課		

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市内高齢者	心身共に健康な状態で暮らしていける。 また認知症や心身機能の低下により介護が必要になっても住み慣れた地域で、尊厳を保ち出来る限り自立した生活を送ることができる。
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
① 対象指標	ア 65歳以上の人口	人	見込み値			17,933	18,273	18,613	18,971	19,392	
			実績値	17,041	17,616	18,083	18,472	18,837			
	イ		見込み値								
			実績値								
	ウ		見込み値								
			実績値								
② まちづくり指標	A 健康だと思ふ高齢者の割合	%	目標値			46.1	47.5	47.5	47.5	49.0	
			実績値	46.1	46.1	46.1	※ 80.7	※ 80.7	※		
	B 地域の人に支えられて暮らしていると感じる高齢者の割合	%	目標値			59.1	60.5	60.5	60.5	62.0	
			実績値	59.1	59.1	59.1	※ —	※ —	※		
	C 老後も安心して暮らせると思ふ市民の割合	%	目標値			37.2	37.9	38.6	39.3	40.0	
			実績値	36.7	36.8	41.2	42.3	42.0			
	D 介護予防サポートリーダー数	人	目標値			210	220	230	240	250	
			実績値	206	217	243	248	257			
	(E) (65歳以上の介護認定率)	%	目標値						(15.0)	(14.9)	(14.9)
			実績値			(15.8)	(14.9)	(15.1)	(14.8)		
まちづくり指標設定の考え方		A: 高齢者の介護予防の効果を示す。 【高齢者生活実態調査(65歳以上の一般対象)の『あなたの現在の健康状態はいかがですか』において、「良い」「まあまあ良い」と回答した人の割合】…中立的回答を含む5択。 ※3年毎に調査実施。平成28年度調査(高齢者の介護と暮らしに関するアンケート)で、設問が「とてもよい」「まあよい」「あまりよくない」「よくない」の4択となったため、実績値は参考とする。 B: 地域生活に対する高齢者の安心感を示す。 【高齢者生活実態調査(65歳以上の認定者を対象)の『あなたは地域の方と支えあって暮らしていると思えますか』において、「思う」「やや思う」と回答した人の割合】 ※3年毎に調査実施。平成28年度調査(高齢者の介護と暮らしに関するアンケート)で、設問がなくなったため、実績値なし。 C: 高齢者福祉に関する市民の安心感を示す。 【市民アンケートの『南アルプス市は、老後も安心して暮らせると思えますか』において、「思う」「まあまあ思う」と回答した人の割合】 D: 地域での介護予防の充実度を示す。 【市が開催する介護予防サポートリーダー養成講習を終了し、介護予防サポートリーダーとして登録された人数】 (E: 65歳以上の介護認定率を維持、あるいは減少させることで健康長寿の度合いを示す。 ……H29マネジメントシートより指標A・Bの実績値が取れなくなったため、参考として追加)									
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方)		A: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定 B: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定 C: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定 D: 地域での介護予防を推進し、5年間で50人(年間10人)の登録者増を目指し目標設定 (E: 高齢化率が上がるなか、介護予防事業を推進することにより、介護認定率の15%以下の維持を目指し目標設定)									

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	39	36	32	27	26	31	
関連事業予算額(単位:千円)	1,736,643	1,743,251	1,036,445	1,049,174	1,083,287	1,027,758	
(予算額の内訳)	国庫支出金	354	597	5,044	5,130	5,215	5,339
	県支出金	113,437	106,737	7,664	7,353	7,545	7,847
	地方債	0	0	0	0	0	0
	その他	75,832	69,391	58,001	55,473	54,103	49,393
	一般財源	1,547,020	1,566,526	965,736	981,218	1,016,424	965,179

#### 4 評価結果(施策の有効性評価)

<b>① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)</b> <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった		※左記の理由 まちづくり指標Aについては、設問の回答区分の「普通」を除いたことにより、実績値が上がったものと推測される。また、指標Cの「老後も安心して暮らせると思う市民の割合」、指標Dの「介護予防サポートリーダーの数」、指標Eの「介護認定率」とも概ね目標値どおりであるため。
<b>② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)</b> <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		※左記の理由 「老後も安心して暮らせると思う市民の割合」については、3年前と比較して5.2ポイント上昇している。また、介護予防サポートリーダーの数においても、40人、18.4ポイントの上昇である。さらに、65歳以上の介護認定率については14.8%と3年前と比較して1.0ポイント下がっているため。
<b>③ 他自治体との成果実績値の比較</b> <input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		※左記の理由 介護予防サポートリーダーの養成、いきいき100歳体操の普及促進(H28年度は26団体、概ね350人→平成29年度は36団体、概ね500人)が図られている。また、地域包括ケアシステム(地域ささえあい協議体=小学校区)の構築については、特に他市に先行しており、県内のみならず、県外からも視察研修の依頼がある状況である。
<b>④ 住民の期待する成果水準との比較</b> <input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		※左記の理由 市民アンケートにおける「老後も安心して暮らせると思いませんか」の満足度が42%と5割に達していない。また、「高齢者福祉の充実」に対するアンケートでは重要であると回答した市民の割合が75.6%と高いにも関わらず、満足度は32.6%と低く、住民の期待する成果水準には達していない。

#### 5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
後期高齢者人口の増加に伴い、認知症高齢者が増加し、2025年には5人に1人が認知症高齢者になると推計される。	今年度からの3年間を計画期間とする「高齢者いきいきプラン」の重点目標でもある「認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるための体制づくり」を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者いきいきプラン(概要版)・認知症ケアパス(概要版)の配布</li> <li>・認知症への正しい理解を深めてもらうため、認知症サポーター養成講座を小中学校・地域住民・企業を対象に実施する。</li> <li>・認知症ケアパスの活用や医療・介護連携の推進を図る。</li> <li>・認知症高齢者等見守りSOSネットワークの周知啓発を推進し、地域での見守り体制の充実を図る。</li> <li>・認知症初期集中支援チームによる早期診断・早期対応に向けた支援体制の充実を図る。</li> <li>・認知症の人やその家族、地域住民の支えあいの場として「認知症カフェ」の充実を図る。</li> </ul>
一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の増加に伴い、生活支援を必要とする世帯が増加している。	「地域包括ケアシステム(医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される体制)」を構築していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療と介護連携の推進(在宅医療・介護連携推進会議)</li> <li>・地域包括支援センター機能の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・市北部を担当圏域とする委託型包括支援センターの設置</li> </ul> </li> <li>・地域住民主体による「地域支えあい協議体(小学校区)」の全地区への設置</li> <li>・介護予防事業(いきいき百歳体操、サポートリーダー養成事業等)を積極的に推進する。</li> </ul>